

# 農林水産大臣賞（優秀賞）

## 命を育む水

沖縄県 宮古島市立北中学校 二年 大濱 愛里

飛行機から見える島には、コンクリートやかわらの屋根の家、木々、さとうきび畑が広がっています。そして、海にはサンゴ礁が見えます。山や川はありません。私の住んでいる宮古島のいつもの景色です。しかし、この島の見えない場所に、大切なものがあります。それは、「地下水」です。

普段当たり前のように、私達のくらしの中には「水」があります。その水を「大切にする」ということは、聞き慣れた言葉の、当たり前のことで、私はそれを理解しているつもりでした。しかし、宮古島の地下水の話を知って、蛇口からきれいな水が出てくることは、当たり前のことではないのだと気づかされました。

宮古島は、地形が平坦で、島を覆う石灰岩の透水性が高いため、川がありません。地表から地下へしみこむ水の割合が他の地域と比べて高く、その量を計算すると年間約一億三千万トンにも達すると言われています。このように豊富な地下水に恵まれた島ですが、降った雨水のほとんどが地中に流れてしまうため、水を得るために様々な苦労がありました。調べてみると、水道が普及する前は、雨水を各家庭でためたり、井戸水を利用してりと、とても大変だったことがうかがえます。その中でも、農業用水の確保は難しく、干ばつに悩まされたこともあるそうです。地下水を有効に活用するために、地下ダムが作られ、水道が整備され、島は昔よりも水に恵まれた環境となりました。水を得たことで、畑で作物を育て、生活の中でも自由に水を使うことができるようになり、安心して、安定した暮らしができるようになったのだと思います。

昨年の夏、沖縄県は雨が少なく、県内でも一番のさとうきびの生産地と言われる私たちの島でも、地下ダムの水位が下がり、農家のみなさんは大きな被害を受けました。朝や夕方に、トラックにのせたタンクから、畑まで水を運んでいたりと、スプリンクラーから勢いよくかん水している

様子を、夏の間は多く目にしました。それでも枯れてしまったものも多いと聞きます。こんなにたくさんの方が、さとうきびを育てるのに必要なのだと知ることができました。しかし、そのニュースを知っていても、各家庭が断水になることはほとんどないので、それをどこか他人事のように感じている人も少なくはないと思います。昔よりも水に恵まれた環境にある私たちが、日々水への感謝を忘れてはならないのです。

水を守るために、どんなことができるか考えてみました。まずは、自分の生活を振り返ることだと思います。のどがかわけば水を飲みます。部活の時も、水を一杯口にするだけで、頑張ろうという気力が湧いてきます。水分を取らないと、人間をはじめ生き物は生きていくことができません。洗濯やお風呂、食器など、清潔な環境を守っているのも水のおかげです。少し振り返るだけでも、私たちの生活が、数多くの水からの恵みを受けていることが分かります。そして、その水をどのように使っているかを考えることも必要だと思います。私は、家で顔を洗うときや、学校の清掃時間など、少しの時間を面倒くさがって、必要以上に水を出したままにすることがあります。ポイ捨てをなくす、洗剤の量を減らすなど、環境を守ることが、水を守ることにつながることを忘れずに、できることから努力しなければなりません。宮古島の地下水や、農業のことを調べてみて、水の大切さを改めて実感し、「当たり前に使っている水」ではなく、「水を大切にすることは当たり前」という意識に変えて、節水を心がけていきたいと強く思いました。

島の地下水は目には見えません。でも、私たちのすぐそばで命を育んでいます。小さなことでも一人一人が続けることで、水の恵みは未来へ届くのだと信じています。